

科目名称：	染色・陶芸演習 I	
担当者名：	権田 宜子、鶴見 晋史、吉岡 将式、上端 伸也	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	8
授業の目的・テーマ		
染色と陶芸各専攻における基礎的技法の修得に努め、技法につながる素材についての研究を重ねながら、展覧会等で作家の工芸作品を鑑賞することで知識を深める。そこで学修したことが、自己表現として作品に展開するための様々な要素やアイデアを蓄積する。		
授業の達成目標・到達目標		
【染色】 伝統工芸として「加賀友禅」で使われている糸目友禅から、型染め（一枚型・重ね型）など多様な染色の基本技法を習得することで、次年度の浴衣や着物等を制作するための基礎となる。 【陶芸】 基礎的技法を学びながら、土の素材を生かしつつその可能性を造形としていくことと、花などのスケッチをしたものから成形された器に絵柄として上絵を施し、そこで釉薬の扱いを習得し経験を重ねる。		

美術学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、主に基礎教育科目により、基礎知識を修め幅広い教養を身につけ、多様な文化や考えに対応できる。	
DP (2)	主に専門科目により、美術に関する理解を深め豊かな表現力を身につけ、社会の一員として貢献できる実践力を身につけている。	○
DP (3)	多様な社会に対応できるように、自己表現を深化させながらも他者の意見を尊重し、様々な表現を受け入れる豊かな人間性をもっている。	
DP (4)	様々な課題に取り組み、応用力と創造力を身につけて、その中から自己の個性を磨き表現できる。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	技術の習熟度	提出課題 (レポート含む)	制作への関心度 ルーブリック	合計
美術DP (1)					0
美術DP (2)		30	60	10	100
美術DP (3)					0
美術DP (4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》権田宜子／加賀友禅染色工房（有）千紅	《経験年数1》 8年
	《内容2》上端伸也／ちゃわんやいちだ 虚空蔵窯	《経験年数2》 11年間
	《内容3》吉岡将式／妙泉工房 九谷青窯	《経験年数3》 4年間 6年間
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
理解	染色・陶芸について良く学び、よく理解することができる	染色・陶芸について学んだが、少し理解することができる	染色・陶芸については知っているが、理解までは至っていない	染色・陶芸についてあまり知らない
表現力	様々な道具の表現について、理解できたので使ってみたい	様々な道具の表現について、良く理解できる	様々な道具の表現について、少し理解できる	様々な道具の表現について、あまり理解できていない
知識	染色・陶芸についての種類や技法を知り、さらに検索し調べた	染色・陶芸についての種類や技法を知り、他にも学びたいと思う	染色・陶芸についての種類や技法を知っているが、使ったことがない	染色・陶芸についての種類や技法をまったく知らない
意欲	染色・陶芸について、さらに追求し、技術を身につけたい	染色・陶芸について、さらに追求したい	染色・陶芸について、興味がある	染色・陶芸は難しいと思う

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1週 【染色】・課題解決型学習(1週) 【陶芸】・外部機関と連携した課題解決型学習	「千代女」の人物像や俳句が作られた時代背景、俳句についても調べておく。	300分
第2週 【染色】・課題①草花のスケッチ/6号 【陶芸】・課題①道具づくり・手ひねり成形	・工芸を始めるにあたり、素材や様々な道具について関係書籍から調べておく。	300分
第3週 【染色】・課題②糸目友禅技法/10号綿布 図案制作 【陶芸】・課題①道具づくり・手ひねり成形	・素材や様々な道具をどのように使用するかを関係書籍を読んで調べる。	300分
第4週 【染色】・課題②糸目友禅技法/10号綿布 試作 【陶芸】・課題②電動ロクロ成形	・糸目技法で仕上げた着物や作品を鑑賞し、完成予想図をまとめておく。	300分
第5週 【染色】・課題②糸目友禅技法/10号綿布 本作 【陶芸】・課題②電動ロクロ成形	・ロクロ成形による造形作品を鑑賞し、完成予想図を考え描いておく。	300分
第6週 【染色】・課題②糸目友禅技法/10号綿布 本作 【陶芸】・課題②電動ロクロ成形	・糸目技法で仕上げた着物や作品を鑑賞し、その技法について調べておく。	300分
第7週 【染色】・課題③型染め技法/10号綿布 図案制作 【陶芸】・課題③粘土板による成形	・テーマとなる草花や動物園でのスケッチから下図を考え描いておく。	300分
第8週 【染色】・課題③型染め技法/10号綿布 試作 【陶芸】・課題③粘土板による成形	・型染め技法で表現された作品を鑑賞し、完成予想図を描きまとめておく。	300分
第9週 【染色】・課題③型染め技法/10号綿布 本作 【陶芸】・課題④加飾技法 スケッチをもとに上絵を描く	・テーマとなる草花のスケッチからモチーフについて詳しく調べておく。	300分
第10週 【染色】・課題③型染め技法/10号綿布 本作 【陶芸】・課題④加飾技法 スケッチをもとに上絵を描く	・加飾技法で表現された作品を鑑賞し、完成予想図を描きまとめておく。	300分
第11週 【染色】・課題④自由テーマ/10号綿布 図案制作 【陶芸】・課題⑤釉薬について	・展覧会への出品を目標に、自由テーマで作品の構想を練る。	300分
第12週 【染色】・課題④自由テーマ/10号綿布 下絵・型彫り 【陶芸】・課題⑤釉薬について	・釉薬で表現された作品を鑑賞し、完成予想図を描いておく。	300分
第13週 【染色】・課題④自由テーマ/10号綿布 糊置き・地入れ 【陶芸】・課題⑥土の塊による成形	・自由テーマから構想したものをもとに、染色の2技法から作品を制作する準備をする	300分
第14週 【染色】・課題④自由テーマ/10号綿布 彩色・定着・水洗 【陶芸】・課題⑥土の塊による成形	・土の塊のみで表現された作品を鑑賞し、完成予想図を描いておく。	300分
第15週 【染色】・オーディション(プレゼンテーション・講評会) 【陶芸】・オーディション(プレゼンテーション・講評会)	・講評会で自分の作品コンセプトの内容を小レポートとしてまとめておく。	300分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
事前事後学習による課題の提出を原則とし、作品評価(60%)、技術の習熟度(30%)、制作への関心度・ルーブリック(10%)

課題に対するフィードバック

オーディションで学習成果を発表し、そこでディスカッションする。各教員からのコメントシートでフィードバックする

教科書・参考書

【参考書/染色】 現代の染め 麻田修二編 至文堂 2,900円
【参考書/陶芸】 釉がわかる本 手島敦 双葉社 1,700+税